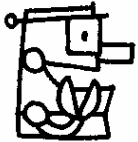


小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /
人と動物の体 / 理解シート

魚には、みんな、歯があるの



たいていの魚が、歯をもっているけれど、何をおもに食べるかによって、歯の形はさまざまなのだ。

歯をあまり使わない魚は、歯が小さく数も少ない

歯でかみちぎった食物をのみこみ、胃や腸に送って消化するのは、魚も人間と同じです。ただし、魚は、おもに食べるえさの種類やえさのとり方によって、歯の役目もちがってくるため、歯の形はさまざまです。

ふつう、カツオのように、すごい速さで泳ぎながら小魚をとらえるものは、歯は小さく、数は少ないし、アンコウのように動きがのろい魚は、歯は大きく、数も多いといえます。水の中にういている、小さいプランクトンをえさにしているイワシなどは、歯はほとんど使わないので非常に小さかったり、タツノオトシゴのように歯がなくなっているものもいます。

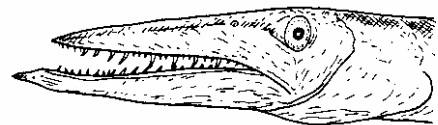
えさの種類ととり方で、それにあった歯に変化している

岩についたかたい殻からをもつものを食べるイシダイなどは、殻をかみくだくため、人間のおく歯のような、うすの形をした歯をもっています。

えさをくいちぎるミズウオダマシやタチウオは、きばのような歯をもち、大型のえさをおそうヨシキリザメなどは、のこぎりのような歯をもっています。

アユは、成長して石などについたこけをけずりとして食べるようになると、子どもころの小さい円すい型の歯から、くしのような形の歯にはえかわります。

キングョやコイのなかまは、あごに歯がないかわりに、のどのおくに、いん頭歯という歯のかわりをするものがあります。



ミズウオダマシの歯